

会報 第71号	Mt. Iwaki Conservation Association <div style="text-align: center; background-color: #cccccc; padding: 5px;"> <h1 style="margin: 0;">岩木山を考える</h1> </div>	2016年12月21日発行 岩木山を考える会 会長代行 小堀英憲
----------------	---	--

新年会のご案内

全国各地で災害が多く、自然も社会も落ち着きません。20年余りの歩みの私たちの「会」ですが、「岩木山」をめぐる新たな動きもあります。1月の幹事会は、役員である幹事以外の会員の皆様にも参加していただき、会議を短時間で行い新たなスタートにしたいと思います。

日時 1月10日(火)午後6時

会場 呑み喰い蔵座敷「川丁(かわちょう)」

弘前市百石町 60-9 (TEL35-4111)

会費 4,000円(飲み放題付き)

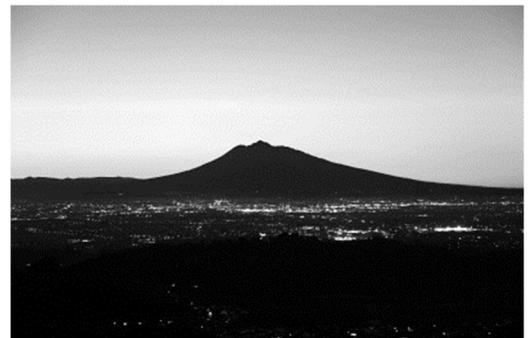
申し込み先 藤原裕貴子 (TEL0172-33-5360)

申し込み締切り 1月6日(金)



第23回写真展「私の岩木山」開催と出品・会場展示のお願い

毎年恒例の写真展「私の岩木山」を下記の要綱で開催します。会員の皆様が撮影した岩木山に関連する写真を、ふるって出品してください。開催前日(2/2)は、出展準備で人手が必要になります。時間のある方はお手数でもご協力ください。よろしくお願いいたします。



期日:平成29年2月3日(金)～5日(日)

AM10:00～PM5:00(最終日はPM4:00)

開催場所:NHK 弘前放送局ギャラリー(弘前市下白銀町 21-6)

出展準備:2月2日(木)午後3時から

(出品する方は同封の出品票に必要事項を記入の上ご持参ください)

花田一雄 記



第5回岩木山講座「岩木山の雪山観察会～平沢川右岸尾根～」

16年度最後の岩木山講座は昨年に引き続き、「岩木山の雪山観察会～平沢川右岸尾根～」を開催します。木々の葉痕や冬芽、昆虫、動物の足跡観察など、岩木山山麓をカンジキやスノーシューを履いて散策します。興味のある方はぜひご参加ください。

期日：平成29年3月19日（日）、午前9時～12時

集合場所および時間：岩木山運動公園前駐車場。午前9時集合

持ち物：飲料水、お茶、カンジキ or スノーシュー（無くても結構です）。防寒可能な服装、長靴 or 登山靴、手袋

参加費：200円

申し込み：竹谷清光 電話 0172 (36) 6686（午後5時～9時）

花田一雄 記

2017年度 岩木山を考える会総会開催のご案内

日時：平成29年4月2日（日）、午後1時30分～3時30分

場所：弘前市民参画センター

多くの会員の皆さんの出席をお願いします。



第4回岩木山講座「志賀坊森林公園の自然観察会とキノコ汁」

10月16日（日）開催の第4回岩木山講座「志賀坊森林公園の自然観察会とキノコ汁」は、10時に森林公園駐車場に集合。爽やかな天気にも恵まれ、総勢28名様が参加です。広い森林公園はこの時季は山野草が少なく、僅かにサラシナショウマ・アキノキリンソウが観られるだけでしたが、果実は数多く観察され、特にコウライテンナショウ・フッキソウ・ノブキ・シオデ・ムラサキシキブ・チゴユリ・ホウチャクソウ・ユキザサなどが目立ち、普段は見られない秋の果実に、皆さんが歓声をあげていました。ナラの木が多いエリアを反時計回りに約3km、2時間20分かけてゆっくり散策です。志賀坊ふれあい館の後側の屋根付スペースを借りて昼食タイム。参加の皆さんは、秋の味覚ナラタケとマイタケのキノコ汁を満喫したようです。春の花の時季にまた観察会を開催して欲しいとの声が多く聞かれました。 花田一雄 記



【お詫び】今回の観察会に参加申し込みの方で、途中の平川市の待合場所で合流できずに、結果として楽しみにしていた観察会には参加できなくなり、大変ご迷惑をおかけしました。携帯電話番号など事前に把握していれば防げた事故でしたが、当会の配慮が足りずに不快な思いをさせてしまいました。今後は同じ過ちを繰り返さないよう幹事一同十分に注意いたします。まことに申し訳ありませんでした。会報を通してお詫び申し上げます。

東北自然保護の集いに参加

去る10月22日、23日に山形県庄内町月の沢温泉(羽黒山のさらに南の山手)で開催された「第3回東北自然保護の集い」に当会の有志として阿部先生とともに参加してきました。

1日目は午後からの開催となり、基調講演として

①「野生動物の保護について」—慶応大学・鶴野レイナ氏

②「自然再生エネルギー開発を考える」—山形大学教授・野掘嘉裕氏

でした。①については人里に出現するツキノワグマに関する習性、生態、人と接する場合について等々実例を示しながらのお話でした。(朝方、川沿いの物陰に潜むことも少なくない)などなど。②については森林(人工林?)を“材木の畑”のように捉え材木を「炭素エネルギー」として順番に伐採利用して回転させてゆくような要旨でした。

小生個人で印象的だったのは①のとき福島代表の方との対話で「渡りグマ」なる230kgもある県境無関係の“ボーダレス熊”の存在でした。(①、②ともその内容、そして受聴側との質疑応答等も小生の頭脳回転が追い付かない感がありました?)

2日目の10月23日は“各県からの報告”の中で

・ダム建設に対する真剣な問題点、風力発電の疑問点

・白神山地秋田側の入山を本県側と同様(届け出入山)にすべきでは(?)

等次々と話題提出。

本県、阿部先生からは本県内での風力発電の設置状況、阿部先生個人が実体験した交通事故に遭遇した野生動物の実例。本県でのバイオマスの実例(八戸市、平川市での間伐材、リンゴ剪定枝の利活用等)等々の報告がありました。

1日目、2日目とも数々の意見、話題が出たように思いました。又、今回の集いでは夕食時の懇親会の場でも色々な話題が出たように思いました。そして、小生の頭脳回転が追い付かない感タラタラでもありました。また昨年の福島県での場合は“単なる自然保護”どころではない「原発事故」という人類的、歴史的な問題の重さ、暗さに圧迫感を覚えたものでした。そして青森市の田中洋一氏が参加されていたのには小生は大いなるプラス感を覚えました。(同氏は“青森の自然を守る連絡会”ということでこの“集い”の発足以前からのメンバーであると小生は認識しています。)

小生は1999年以来この集いの情報を知るたびに、自主参加をさせていただいています。東北地方の各位にしてもそれぞれ各目的、各思想等々当然同一ではないでしょうが、年1回、一同に会して横の

連携をとり合うことは大いなるプラスと思う次第です。

余談(上記とは無関係)

- ・南東北の山形県でも“蝦夷館(エゾタテ)”なる地名があったこと。
 - ・幕末の志士“清川八郎”の出身地が近いこと。
 - ・慶応4年の内戦の時、庄内藩はかなりの善戦だったらしいこと。
 - ・庄内地方では県の内陸部の南東北弁とは違ってかなりハキハキと聞きやすい言葉らしいこと。
- 等々が“ミニ歴男”の小生には印象的でした。

齊藤真人 記

岩木山登山口に「入山届ポスト」が設置されました

11月16日、岩木山環境保全協議会の情報交換会が開催されました。

その中からいくつか紹介します。

1. 当会の要望が実現しました。嶽、百沢、弥生の各登山道入口に、立派なポスト



新しい入山届ポスト。中に届け出用紙も入っています。



弥生いこいの広場ハイランドハウス前



嶽温泉、嶽登山道入口



百沢スキー場ターミナル手前、百沢登山道入口

が設置されました。

岩木山登山をするときは、万が一に備えて届け出をするようにしましょう。毎週1回警察が回収してくれます。

2. 嶽登山道と百沢登山道の笹の刈り払いと整備を行いました。壊れている箇所や笹でおおわれている箇所などに気が付いたら、事務局へお知らせください。

3. 赤倉登山道 26 番観音付近の登山道わきの崖の崩落の危険について話し合われました。う回路の設置の検討がなされましたが、もう少し時間がかかりそうです。もう冬なので 26 番観音付近の登山道を登る方はいないと思いますが、雪解け後は十分に気を付けてください。 竹浪 純 記

(※岩木山環境保全協議会メンバー: 弘前市観光政策課、津軽森林管理署、岩木山神社、(株)岩木スカイライン、青森県自然保護課、日赤岩木山パトロール隊、岩木山を考える会、津軽百年の森づくり、岩木山観光協会)

岩木山スキーツアー事業計画の打診がありました。

北海道ニセコの企画会社から、外国からのスキー旅行客を対象にした厳冬期のスキーツアー事業計画についての打診がありました。1 回 12 名程度のツアー客に対して 2 名のガイドがつき、が 2 日間に渡って雪上車で 8 合目まで登り、スキーを楽しむ計画だそうです。当会からは、岩木山がイヌワシの餌場となっており影響はないのか、岩木山は信仰の山ともされており 8 合目から上で営業活動はすべきではない、厳冬期は天候も変わりやすく安全を確保できるのか、などの意見を述べました。会員の皆さんは、どう思いますか？ご意見をお寄せください。計画の概要を知りたい方は、事務局までお問合せください。 竹浪 純 記

「弥生いこいの広場」の整備を市民の目線で考えよう！

弥生ネットが来春、市民集会を企画予定

岩木山の麓にある弘前市弥生いこいの広場は、安全に自然に触れあえる野外リクリエーション施設として、市民に親しまれてきています。2015 年には利用者は 76000 人を超えました。ところが、1976 年の開設から 40 年を経る中で施設の老朽化が進んでいます。市は再整備を計画しており、整備計画作成の中で弥生ネット(※)に声がかかりました。当会の小堀副会長、阿部幹事が弥生ネットの幹事で、竹浪事務局長が弥生ネットの事務局長でもあることから、岩木山を考える会としても、この課題に関心を寄せてきました。

一番の問題は、動物広場の畜舎の老朽化です。畜舎の鉄材の腐食や破損が進んでいるとのこと。改修するなら、全国の他の動物園も参考にしながら、動物にとっても、飼育員にとっても優しい構造と展示方法を考えたいものです。

二つ目には、広場の中心施設であるハイランドハウスの老朽化です。耐震診断も必要とされており、今後あの建物をどうするか？改築か？新築か？どのように利用するのが一番いいのか、など、改めて考えてみる必要となりました。

この二つの課題を中心に、市民に親しまれているこの広場を今後どのようにしていくのがベストでしょ

うか。弘前市も悩んでいるようです。広場の運営経費は、動物広場の収入を含めて、差し引き、持ち出しの税金が毎年 7000 万円ほど投じられていますので、市民一人一人に関心をもっていただきたい事案です。

弥生ネットは、この課題を市民にもっと知ってもらうために、来春、市民集会を企画する予定です。弘前市も説明に来て下さるとのことです。企画が具体化した時点で、詳細を東奥日報や陸奥新報などで記事にしてお知らせできると思いますので、どうぞご参画くださるようお願いいたします。

事務局長 竹浪 純 記

(※)弥生ネット=正式名称を「弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク」と言い、構成団体は、「コープあおり弘前地域」「岩木山を考える会」「弘前市民オンブズパーソン」「津軽保健生活協同組合」「弘前市を考える会」「市民が主人公のみんなの会」の 6 団体で構成。

11月22日の毎木調査について

今回の毎木調査(※)測定には阿部先生、竹浪事務局長、そして私のメンバーで実施いたしました。昨年度と異なり天候はカラリで初夏のジャングルもりもり状態とは違って見通し、歩行、作業ともスイスイでした。

今回の調査作業の場で私個人として印象的だったのは阿部先生のテキパキさでした。(例えば植物、動物、昆虫などの生態系への洞察、樹木の状態、番号プレートの取付け状態の確認、現場に発育した幼木の種類とその発生理由等々)さすが専門の研究者であると感じた次第です。

以下、小生の各エリアに対する私見としては

(第一エリア)は地盤を4段位に削って整地してあるので根付きが不良で虫食いが多いのでは？

(第二エリア)はもともとの山の斜面の部分と削って整地した部分とがあり、もともとの山斜面の方は樹木がしっかりしているのでは？

(第三エリア)は整地部分ではあるが植物はよく繁茂しているようには見えましたが測定木の成長はよくないと感じました。

以上が小生の小見解であります。

現在実施している測定法は正規の測定法と思いますが数々の主張、意見を経た上ようやく確立された感があります。しかしメジャーの当て方の絶妙な角度、クセ、樹木の形状、乾湿による樹皮の変化等々により微妙な誤差は避けられないと思いますのでどうしても長期的展望の視点もポイントの一つと思います。今回は晩秋枯れの時期であったので来春(初夏)の緑モリモリの時期に阿部先生には是非同行、そして洞察を願いたい次第です。

斉藤真人 記

※「毎木調査」:弥生ネットが弥生スキー場跡地の自然回復の度合いを測定するために2010年から始めた取り組み。30本の対象木を決めて、毎年初夏と晩秋に幹の太さを測定しています。今回の測定で、年間2.2cmの成長があったこと(6年間で13.6cmの成長)。樹種の更新による新たな遷移が始まっていることが観察されました。

(寄稿) 弥生スキー場跡地に豊かな森をつくるために

弥生跡地は私が高校生の頃(70年以上前)にはミズナラの林と採草地跡の草原、畑さえある虫の豊富な里山でした。20数年前スキー場開発が計画され、低い方の半分近くが駐車場やリフトの発着のため削られ埋められて河原のような石ころだらけの造成地となりました。スキー場反対運動が起こったころの(写真1)です。反対運動に備えてか、機材を運ぶための車道とその近くにはマツとラクヨウの植林もされていました。(このマツは現在ほとんど育っていません。それ程表土がはがれ貧しい土だったと想像されます。)(写真2、3)



写真1

この荒地にもコケが生え、クローバーやミヤコグサが生えやがてススキが生え、周りから土の流入と共にコリヤナギやハンノキが侵入しシラカバの幼木も目立ち始めました。

現在2016年の調査では陽樹のヌルデやヤナギの枯死が出始め、よく成長したヤマナラシやハンノキの幹にはシロスジカミキリの幼虫が穴を穿ちハンノキやシラカバの根際にはハンノキカミキリの幼虫の孔が無数に見られヤナギの幹にはイタヤカミキリの幼虫の糞出し孔が見られます。林床にはナラやイタ



写真2 マツの苗が植えられた



写真3 マツの苗

ヤの幼樹が見られるようになりました。5～6年もすればナラ、クルミ、イタヤが目立つようになると思います。生きている樹の幹を食べこれを枯らしたり折れ死させるこれらの虫は害虫としてよりも、森を育てる重要な働きをしていることが判ります。ブナの木など生育できない痩せた土地を腐植土に変え、新しい環境を作り、生態系はいろいろな生物の働き合いで時間をかけ作り上げられるものと思います。

山火事が起きたり、土石流が生じ緊急に表土を保護する必要があるとか、人間がジャングルを伐り砂漠や荒れ地を作ってこれを復元しようというのであれば植林が必要です。放っておいても林が育つ日本では特定の材を得るための植林以外では植林の必要がありません。むしろ植林により同

じ樹種が同じ時期に好む虫などにより一斉に攻撃され森全体が枯死するナラ枯れの現象のようなことが起こるからで、森を作るはずの虫が害虫化することになります。多様性のある森をつくるには、出来るだけ自然の推移にまかせ、時間をかけて育てる必要があるといえます。又こうした歴史を経て溪畔にはハンノキが残り、雪崩の起きる崖の稜線にはヤマモミジの群落が生じ、ブナの林の中にもたくましく枝を張るミズナラが残っている豊かな森が出来るのでしょ。

さらにもう一つ。一年に何万と種をつけるブナがあったとして、おそらく同じ遺伝子を持つ種子は二つとないはずで。それはこの地球上何億人の中に同じ遺伝子を持つ人間（一卵性双生児を別として）がいないことを見ても判ります。一本の樹木が毎年何万と種子をつくり、何十年の中で沢山の樹木が幾千万の種子を落とした中から、その環境に適した苗だけが育っている自然についてしっかり目を凝らしていただきたいと願うものです。

阿部 東記

会員継続と平成 28 年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度の会費を未納の方には引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

会員の皆さんへお願い

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

※編集後記

現在二匹のネコが住み着いている我が家ですが、去年から今年にかけて沢山のネコを家の周りや畑で目撃しました。黒猫、トラネコ、銀色のネコ。度々我が家に侵入しては縄張りを荒らしに来ていました。うちのネコ達は軟弱なのでいつも追い掛け回され逃げています。ネコが多いのは去年の冬が暖かく雪が浅かったため越冬できたからでしょうか？うちには二匹で丁度いいかな。ネコが住み着くといいことがあります。まずネズミを捕食してくれるということ、残飯を綺麗に平らげること。（魚は骨も残さず全部食べるし、シンクの排水口にたまったご飯粒等も食べる。）

でも、デメリットもあります。一度家の中に入れたことがあったのですが戸締りしてしまったために外で仕事している間の中でウンチやおしっこをされてしまいました。かなり臭い。なので、基本、家には入れないことにしています。りんご箱が彼らの寝床。ネズミにひどくりんごの木をやられたので、ネコは我が家の守り神です。でも、オスとメスなので来年は子供が増えるでしょう。どうしよう？

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第71号(2016年12月21日)発行／岩木山を考える会
副会長(会長代行) 小堀英憲

〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15／電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純／電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会